

研究課題番号	3-1901
研究課題名	新規POPs含有プラスチック廃棄物の環境上適正な管理に向けた国際的な分析技術基盤の整備
研究実施期間	令和元年度～令和3年度
研究機関名	国立環境研究所
研究代表者名	梶原 夏子

1. 委員の指摘及び提言概要

研究目標通りないし目標を上回る成果を上げており、POPs含有廃棄物の安価で簡易な測定法の開発、分析法の妥当性評価、処理・循環実態の解明など環境行政への具体的な貢献も評価できる。新規化学物質に対して、その規制、対策のために分析法の決定が重要であることがよく分かった。相互検定による分析法の精度評価、国際的展開のための安価な方法の提案など、分析技術の基盤となる成果を得ており、製品および破砕物の分析は資源化・処理によるフローコントロールの示唆を与えている。プラスチック廃棄物を対象とした研究としては、マイクロプラスチックや可塑剤成分など、幅広く、統合的にとらえねばならない課題があり、引き続きの展開を期待する。

2. 採点結果

評価ランク：S